

先端計測分析技術・機器開発プログラム事業の方向性

平成 27 年 7 月 23 日

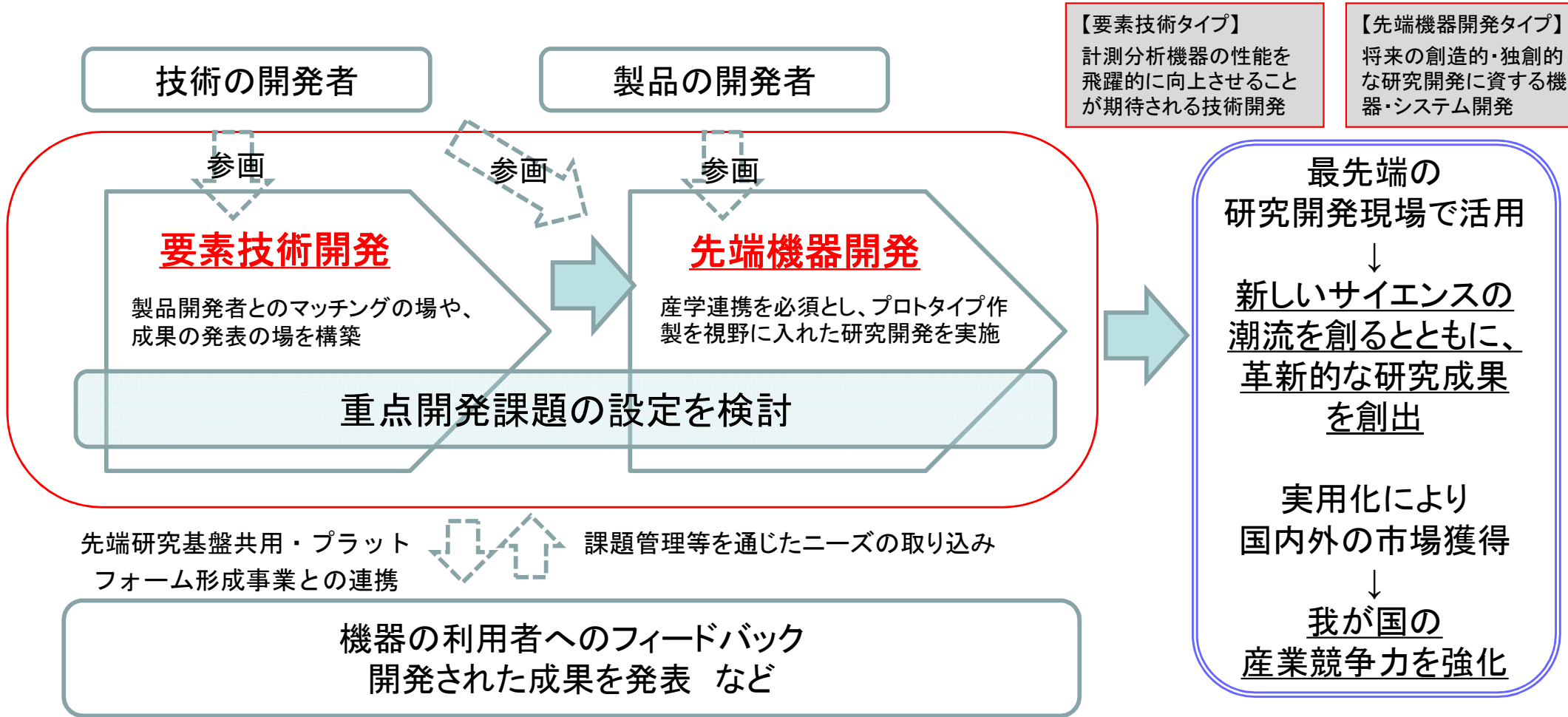
文部科学省

科学技術・学術政策局

研究開発基盤課

先端計測分析技術・機器開発プログラム

- 体制**
- 研究開発の進捗段階に応じて、「要素技術」「先端機器開発」の2つのタイプを設け、産学連携による研究開発を推進。
 - 開発開始1年経過時に中間評価を、開発終了後には事後評価・追跡評価を実施することにより、事業目標の達成状況を適時・適切に検証。
 - 専門的な立場から開発チームを支援・アドバイスできる研究者(開発総括)を取組フェーズ毎に置き、効果的・効率的に開発を進める。



重点開発課題候補の考え方

□ 共用プラットフォーム連携型

- NMR共用プラットフォーム（H27年度試行）
- H28年度以降の新共用プラットフォームより重点開発課題候補を選択

□ 戦略的技術開発型

- 将来の先端計測機器のフラッグシップとなる要素技術・システム
- 未開拓で一定規模の大きさの見込める計測機器・システム
（オンリーワン・ナンバーワン、先行者利益）
- 計測機器市場で市場や価値の変革を生み出すことが可能な新技術
（破壊的イノベーション※）

※Clayton Christensenが提唱しているdisruptive innovationの意



共用事業との連携による相乗効果

先端計測分析技術・機器開発プログラム

- 研究現場のニーズに基づく開発課題を設定し、機器を開発
- 共用を通じて得られたユーザーニーズに基づき、機器の開発・改良・高度化



連携

- 開発した機器を共用
- 研究現場のユーザーのニーズを把握し、技術開発のシーズにフィードバック

先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業

先端計測機器開発の戦略的推進

